

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	医療福祉教育・管理
学籍番号	20S3011	院生氏名	海老原 賢人
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	理学療法士の自己調整学習方略尺度の開発～信頼性と妥当性の検証～		
審査結果(枠で囲む)	合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>本論文は既発表論文である。本研究では主体的で自律的な取り組みを表す「自己調整学習」に着目し、理学療法士における自己調整学習方略の尺度の作成、およびその信頼性と妥当性を検証することを目的としている。</p> <p>既存の尺度である「看護師の自己調整学習方略」(三浦, 2011)をもとに、理学療法士と作業療法士の15名の専門家会議にて項目を追加、修正、削除することで「理学療法士の自己調整学習方略尺度」の原案として58項目を作成した。臨床業務に従事する理学療法を対象として、この原案58項目の尺度を用いて、普段の学習場面を想定した際に、「まったく行わない(当てはまらない)」～「いつも行う(当てはまる)」の4件法にて回答するアンケート調査を実施した。分析は、探索的因子分析により因子的妥当性、Cronbachのα係数により信頼性の検討を行った。また探索的因子分析にて抽出された項目の構成概念妥当性を確認的因子分析にて検証した。</p> <p>アンケート調査により251件の回答が得られた。探索的因子分析の結果、「専門職アイデンティティ基盤的学習方略」、「向上志向的学習方略」、「協同学習方略」、「実践基盤的学習方略」、「自律的自己学習方略」の5因子、35項目が抽出された。さらにこのうち17項目にて要因間の直接・間接効果を含めたモデルを作成した。なお因子分析の妥当性および高い信頼性を確認した。本研究の結果から、理学療法士の自己調整学習方略は看護師の方略と類似する点が多いこと、また「専門職アイデンティティ」という理学療法士特有の視点が含まれることが明らかとなった。</p> <p>本研究で提案した尺度は、臨床現場や教育現場において理学療法士の「自ら学ぶ力」を評価するための有益な尺度となることが期待され、本研究はその第一段階として高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査は11月24日に行われた。尺度項目の選定の具体的な手法や専門家会議の構成メンバー、看護師における先行研究との相違点と類似点を踏まえた本研究のオリジナリティ、尺度の具体的な応用・実用化について質疑がなされた。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問において適切に回答した。</p> <p>4. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(医療福祉教育・管理学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	渡邊 観世子	
	副査	金子 秀雄	
	副査	平田 文	